

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司



本年の案内広報

令和7年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- 1/10 年賀寺例
- 2/2 大節分会
- 2/15 釈尊涅槃会
- 3/9 般若会/大施食会
- 3/17~3/23 春季彼岸会
- 3/23 観桜供養会
- 4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 5/25 檀信徒研修旅行
- 7/13~7/16 新暦盂蘭盆会
- 7月下旬(1泊2日) 第42回子供禅の集い
- 8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- 12/8 釈尊成道会
- 12/10 歳暮寺例
- 12/31 除夜会

- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古
- ※隔週土曜日 華道教室
- ※毎月最終土曜日 ヨガ教室

除夜会、大節分会報告

本年も仁叟寺恒例の伝統行事をつとめることができました。

年越しの除夜会二年参りでは、総代人各位にご尽力いただき、盛会裏に修行することができました。

また恒例の大節分会では。おやじバンド演奏会やキッチンカー出店等、行事に華を添えていただきました。

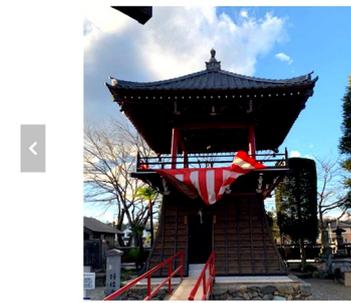
本年は暦の関係で2日日曜日が大会当日となり、豆撒きも非常に多くの方々が集い、大変賑やかにつとめることができました。特にご来賓として、中曽根弘文参議院議員、福田達夫衆議院議員らが見えられ、共に福豆・福餅やラーメン、地区賛助企業の景品が当たるカラーボールの「福」を投げさせていただきました。

地域やご縁に繋がる関係者各位、特に総代人、世話人役員の皆様方には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。合掌



各地で節分イベント

上毛新聞記事(2月3日付)



「仁叟寺」鐘楼 高前エリア「除夜の鐘」突けます 早い寺は22時30分前から受付・整理券 <記事に戻る>

ヤフーニュース配信ネット記事

仁叟寺副住職の渡辺龍道さんは「能登半島地震から1年。被災地の復興や世界が平和な世の中になるよう祈念し、伝統行事である除夜の鐘を突いてみてはいかがでしょうか」と呼びかける。

自らを洲とする ～能登半島地震復興支援～

昨年1月1日元日に発生した能登半島地震は、大きな被害をもたらしました。茲に亡くなられた方々に謹んでご冥福を祈念いたしますと共に、負傷されたり避難されている方々、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

瑩山禅師が開かれた曹洞宗の源でもある大本山總持寺は、鎌倉時代の元亨元年(1321)創建。今から120年以上前の明治時代に大火に遭い、その後、現在地である横浜市鶴見区にご移転を果たしますが、それまでは能登石川県輪島市門前町に所在しておりました。



国の重要文化財に指定された總持寺祖院

また昨年12月に總持寺祖院が国指定重要文化財となりました。当山住職が大本山總持寺監院として、石附周行大禅師猊下のご慈慮のもと、大遠忌法要と並行し、指定に至る道筋をつけられました。被災地域の心のよりどころであり、また曹洞宗門の源である祖院復興への大きな追い風になるものと期待されます。總持寺祖院始め能登の復興に当たり、長い時間が掛かるかと思いますが、住職も大本山總持寺監院として、また仁叟寺も力を尽くさせていただきます。

最後に、昨年仁叟寺では、大本山總持寺、總持寺祖院、曹洞宗宗務庁、曹洞宗群馬県宗務所等々に支援金及び義援金を拠出いたしましたこと、茲にご報告いたします。

※檀信徒各位に、本年年賀の折、輪島塗大本山總持寺箸を頒布いたしました。ご活用下さい。

戦後80年 パラオ・ペリリュー島慰霊供養



ペリリュー島は、パラオ共和国南方の珊瑚礁からなる、人口600人、面積13 km²（諏訪湖とほぼ同じ）の小島です。太平洋戦争の激戦地の一つであり、今でも多くの戦跡が遺されています。戦後70年を機として、平成27年(2015)4月9日、天皇陛下（現上皇陛下）ご夫妻が、日本政府により建立された「西太平洋戦没者の碑」慰霊にご訪問なされました。

昭和19年(1944)9月15日、グアム・サイパンを陥落させた米軍は、54,000人の兵力でペリリュー島に侵攻。茨城水戸第2連隊と群馬高崎第15連隊を主力とする10,000人の守備隊と開戦。米軍は兵力火力共に圧倒、兵力は5倍、火力は100倍以上ともいわれ、当初は3日で制圧できる計画でした。日本軍は中川州夫司令官指揮の下、迎撃し、一時は米軍を撤退させる戦果を挙げます。島を要塞化し、徹底したゲリラ戦を展開しますが、米軍の圧倒的な兵力火力を前に11月27日玉砕しました。戦死者は日本軍10,000人、米軍2,300人と伝えられています。

本年は戦後80年。仁叟寺77名、旧多胡村80名、旧吉井町668名が戦死しました。仁叟寺副住職で龍源寺二十七世渡辺忠久大和尚も、昭和19年10月、比国マニラ沖にて戦死。本年2月、副住職が群馬県有志寺院15名と慰霊法要を勤めて参りました。



ペリリュー島・西浜
日米双方の大激戦地と
なった砂浜にて群馬県
有志寺院の慰霊法要

境内案内図を一新

看板アーティストとして広く活躍するD-CAN 金澤康俊氏による境内案内看板が完成いたしました。氏は、当山檀信徒である高崎書道会長をつとめられた故金澤子卿先生のご子息であり、親子二代に亘り、作品が菩提寺仁叟寺に納められました。

もともと、当地には金澤康俊氏が30代に描いた案内看板があり、庭園欣正園が完成された際に設置されました。設置より30年以上が経過し、絵や文字等が見え辛くなっており、今回の一新となりました。

仁叟寺駐車場内、欣正園入口に案内看板がございます。是非、ご覧ください。



D-CAN 金澤康俊氏手書きの境内案内看板

上野三碑かるた

本年2月28日付けの上毛新聞地域紙「タカタイ」紙にて、仁叟寺多胡碑が紹介されました。

平成29年(2017)上野三碑がユネスコ世界の記憶に指定され、「上野三碑かるた」が作成されました。同かるたの「せ」は、仁叟寺多胡碑をよんだ「蝉しぐれ 多胡碑の模刻 仁叟寺」となっています。

当山では、模刻ではなく裏碑との見方をしておりますが、多胡碑は1,300年以上の歴史を有する貴重な古碑であることは、相違ない事実です。

上野三碑ボランティア会の会長は、当山檀信徒であり町教育長等を歴任された森賢六氏。

旧家向井家より寄進され、古照堂に安置されている仁叟寺多胡碑は、歴史の浪漫を感じる、昔を語る大切な文化財です。

2025年(令和7年) 2月28日 (金曜日)

上野三碑かるた・ステージへの誘い 2



上野三碑かるた

～ゆかりの地を訪ねて～

仁叟寺は室町時代前半に吉井町下奥平九谷に創建され、1522年に現在地に移り、開山されたと言われています。

約500年の歴史を誇る古刹の境内には本堂や山門、鐘楼などが建つほか、旧家に伝わり寄進されたもう一つ多胡碑を大切に納めた古照堂も目を引きます。県指定天然記念物の榎の木や市指定の榎の木も必見です。(上野三碑ボランティア会 森賢六)

500年の歴史誇る古刹



もう一つ多胡碑が納められている古照堂

樹木葬自然墓「仁叟寺大樹苑」開苑5年

五輪桜と大樹苑



令和2年(2020)3月、株式会社エータイが担当し、仁叟寺本堂北側に開苑した樹木葬自然墓「大樹苑」。お陰様で、本年度開苑5年が経過いたしました。有名な市保存樹五輪桜のもと、県指定天然記念物カヤの木、市指定天然記念物モクの木等に囲まれた自然環境豊かで、綺麗に整備された墓所です。

こちらを終の棲家に定める方が多く、毎年3月には大樹苑観桜供養会も行事として定着して参りました。

仁叟寺ではほかにも、平成11年(1999)に独立型永代供養墓「眞佛苑」が開苑。墓所の多様性も鑑み、安心とやすらぎの寺院として、これからも歩みを前に進めさせていただきます。

「願わくは 花の下にて 春死なん その如月の 望月の頃」(西行法師)

令和6年度 御寄進者一覧 (順不同、敬称略)

No	日付	地区	御芳名	内容	寄進物品
1	3月23日	東京	築地製作所	為創業者社葬	国産杉材納骨棚
2	4月10日	東谷	酒井 忠夫	為亡母菩提供養	国産杉材納骨棚
3	4月21日	多胡	神保 千則	為亡父菩提供養	国産杉材納骨棚
4	5月15日	吉井	神保 奉文	石塔開眼会	櫛製写真立
5	5月17日	多比良	篠崎 和義	石塔改修開眼会	木製案内板
6	6月22日	神保	神保 尚一	為両親菩提供養	狛下扁額
7	6月30日	吉井	赤井 美彦	石塔開眼会	櫛製写真立
8	7月9日	吉井	神部 幸子	石塔開眼会	木製案内板
9	8月3日	横浜	小橋 照子	為光厳院菩提供養	扁額修繕
10	8月4日	前橋	榊原 亨	石塔開眼会	洗面板
11	盂蘭盆会	-	-	新盆諸精霊供養	本堂畳張替
11	9月1日	多比良	篠崎 積次	石塔改修開眼会	扁額修繕
12	9月4日	吉井	吉田 宏昭	為亡父菩提供養	経机
13	9月5日	藤岡	三木 文明	為先祖代々菩提供養	会館引戸塗装工事一式
14	9月28日	長根	金田 三千代	為夫菩提供養	扁額修繕
15	10月20日	吉井	井上 洋	為亡父菩提供養	早稲田大学校歌額装
16	10月20日	吉井	井上 洋	為両親菩提供養	大三波石
17	11月13日	吉井川	柿田 文和	為亡父菩提供養	梅花椅子5脚
18	12月7日	千葉	森 毅	為両親菩提供養	法隆寺型常花
19	1月13日	横浜	向井 善彦	為亡父菩提供養	法隆寺型常花

(供米) 新井徳衛・神保堯男・柿田憲一・黒澤弘一・鈴木昌邦・金澤宏行

(鉢植球根) 森久・小沢昇・鈴木昌邦・関口孝雄 (地藏帽子) 柿田珠江・関口恭子



新総代人委嘱のご報告

井上洋様(吉井)を、吉井地区の仁叟寺総代人として、本年度より新たに委嘱させていただきました。宜しくお願い申し上げます。

行雲流水 (編集後記)

編集人 住職代行 渡辺龍道

本年令和7年は昭和100年、戦後80年となる節目の年です。2月中旬、群馬県有志寺院15名と共に太平洋戦争激戦地の一つペリリュー島戦跡に慰霊供養に伺いました。群馬茨城両県の部隊が主力であり、英霊名簿には群馬県の地名が数多く記されておりました。当山の記録でわかる限りですが、当地では仁叟寺3霊、龍源寺1霊が亡くなられております。世界ではウクライナやガザ等、今でも戦争は続いております。改めて平和の大切さを感じた次第です。合掌